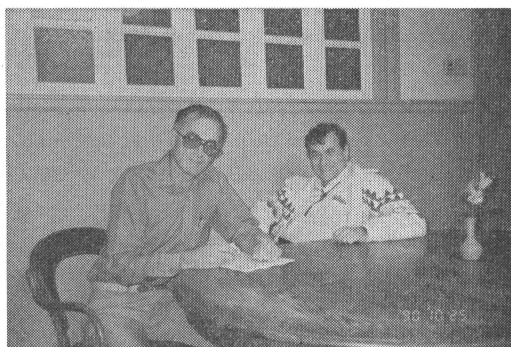


Doviak 博士 と Zrnić 博士

科学技術庁の長期在外研究員として一年間、NOAA の National Severe Storms Laboratory (NSSL) に滞在した際、気象レーダーの分野の権威で、「Doppler Radar and Weather Observations」の著者でもある Doviak 博士と Zrnić 博士と親しくする機会が得られました。Doviak 博士はフィラデルフィア出身の伊達男で1987年には客員教授として京都大学に来たこともある親日家です。一方、Zrnić 博士はユーゴスラビア出身で野生味あふれる性格の持ち主です。タイプが全く異なるにもかかわらず親友同士であるこの両博士の素顔についてお知らせしたいと思います。以下はいつものレストランでの昼食時のインタビューをまとめたものです。

いつもは Doviak 博士から質問責めにあっているので(一つ答えている間に質問を10個されます)、今日こそはとオクラホマ大学の近くにあるレストランでインタビューをしました。まず Doviak 博士の経歴ですが、博士は1963年にペンシルヴェニア大学で電気工学の学位を取得した後、大学の研究所でマイクロ波 Chamber 内での電子のふるまいに関する研究、高出力レーダーを用いた対流圏の晴天エコーの研究等を経て、1971年に NSSL に着任しました。そこで、National Network of Doppler Radars の研究プロジェクトのリーダーとして、severe storm の研究、プレストームの研究を行いました。この研究プロジェクトは、米国で展開している在来型気象レーダー網を約130台のドップラーレーダーで置き換えて、より精度の高い監視体制をとろうという Next Generation Weather Radar (NEXRAD) 計画の基礎となりました。1983年からは航空機搭載ドップラーレーダーによる風、波動、乱流の研究に着手し、現在の研究の興味は大気中の重力波(“buoyancy wave”の方が適切な naming というのが博士の意見)とのことです。博士は



左側が Dusan S. Zrnić 博士、右側が Richard J. Doviak 博士 (1990年10月25日、ノーマンのあるレストランにて)。

IEEE や MIT のリンカーン研究所で近代レーダーに関する講義を受け持ってきましたが、現在はオクラホマ大学の Cooperative Institute for Mesoscale Meteorological Studies (CIMMS) に席を置かれたわら、大学でレーダー気象学の講義を受け持っています。

次に Zrnić博士ですが、博士はユーゴスラビアの生まれで1965年に Belgrade 大学を卒業後、1969年イリノイ大学で電気工学の学位を取得しました。その後、カリフォルニア州立大学の教授として電気工学の講義を受けもつたわらレーダーシステムの研究にたずさわりました。1975年～1976年には客員研究員として NSSL に滞在し、そこで Doviak 博士と知り合いました。1978年にはドップラーレーダープロジェクトのリーダーとして NSSL に正式に着任し、現在は、NSSL のドップラーレーダーとリモートセンシング研究グループのリーダーです。又、オクラホマ大学の adjunct professor として電気工学と気象学の講義を受け持っています。1973年から1976年、博士の研究はドップラーレーダーによるトルネ

ードの測定に焦点があてられ、レーダーでトルネードの渦を“見る”ことができることを実験的に、理論的に示しました。1975年から1982年にはレーダー信号処理の設計の研究に着手した後、NEXRAD 計画のための電やその他の気象災害の予測アルゴリズムの研究を行いました。現在は二重偏波レーダーに興味をもっており NSSLにある2台の10 cm 波レーダーのうち CIMARRONレーダーは昨年、二重偏波の機能が付加されました。

最後に、二人の性格を語るエピソードをいくつか紹介したいと思います。これは Doviak 博士の友人から聞いた話です。エピソードその一：Doviak 博士も Zrnić 博士も議論好きです。ある日、いつものようにオクラホマ大学の室内プールへ（昼食前の日課になっています）出かけました。そして一泳ぎした後、分子論が何かの話に花が咲き、気付いたときには下に何もはかずに更衣室から出てきて女子学生にばったり、大あわてしたとのこと。エピソードその二：Doviak 博士は大の負けず嫌いです。そして、たいていの競争では知らない間に勝っています。ある日、Zrnić 博士と昼食後、研究所までどちらが速く車で帰れるかを競争しました。非常にせっかちで、急ぐことなら誰にも負けないであろう Zrnić 博士が勝つだろうとは、Zrnić 車に同乗した私の予想でした。しかしその予想に反して私たちが研究所に着いてみると Doviak 博士が先に着いています。確かに、レストランを出発するときは我々が少し早く出たはずだし、信号待ちをしなくて良い近道をしたはずなのですが、いつ

の間にか早く到着しているのです。そして勝っても何くわぬ顔をしているところが Doviak 博士らしいところでしょう。エピソードその三：一方、Zrnić 博士は誰もが認めるユニークな性格の持ち主です。誰かれとなく大きな声で屈託なく話しかけるため、彼がどこを歩いてもその存在がわかります。天真爛漫といった性格がびったりで、車を運転中に美人が通っていれば後ろを振り返り、他人の目を気にするといったことが全くありません。服はいつもラフなスタイルで外見からは繊細なイメージにはほど遠いのですが、実は芸術家です。クラシック音楽を愛好し、彼自身ピアノを弾き（ユーゴスラビアの大学では工学の他に音楽の学士号も取ったとのこと）、フランス語、ロシア語を話します。又、この関係からか彼の奥さん（大変美しい方です）はオクラホマシティ大学のパーフォーミングアートの学部長です。

二人ともタイプの異なる性格の持ち主ですが、大の親友同志で、共通しているのはどちらもスマートであるということ。最後に、二人にお互い相手のことを一言で表現してもらいました。Doviak 博士によれば「Dusan はスマートで情熱家」。一方、Zrnić 博士によれば「Dick はスマートで親切な人、彼が居たから私は NSSL で働くことを決めた」とのことです。この二人、現在、忙しい合間をぬって、「Doppler Radar and Weather Observations」の改訂作業中です。

（防災科学技術研究所・真木雅之）

講演企画委員会からのお知らせ

「スペシャル・セッション」のテーマ募集

1992年度春季大会（筑波）のスペシャル・セッションを下記の要領で募集します。テーマや申込総数によっては講演企画委員会で調整する場合もあり得ますので、ご了承ください。

記入事項：

1. セッションのテーマ
2. 趣旨説明（400字程度）
3. 呼びかけ人およびその連絡先

以上は春季大会告示の際に「天気」に掲載されます。

申込先：〒305 茨城県つくば市長峰 1-1

気象研究所 予報研究部内

講演企画委員会（藤部文昭）

申込期限：1991年11月11日（月）必着

なお、スペシャル・セッション等に対するご意見・ご要望がありましたら、随時講演企画委員会（上記宛て先）へお寄せ下さい。